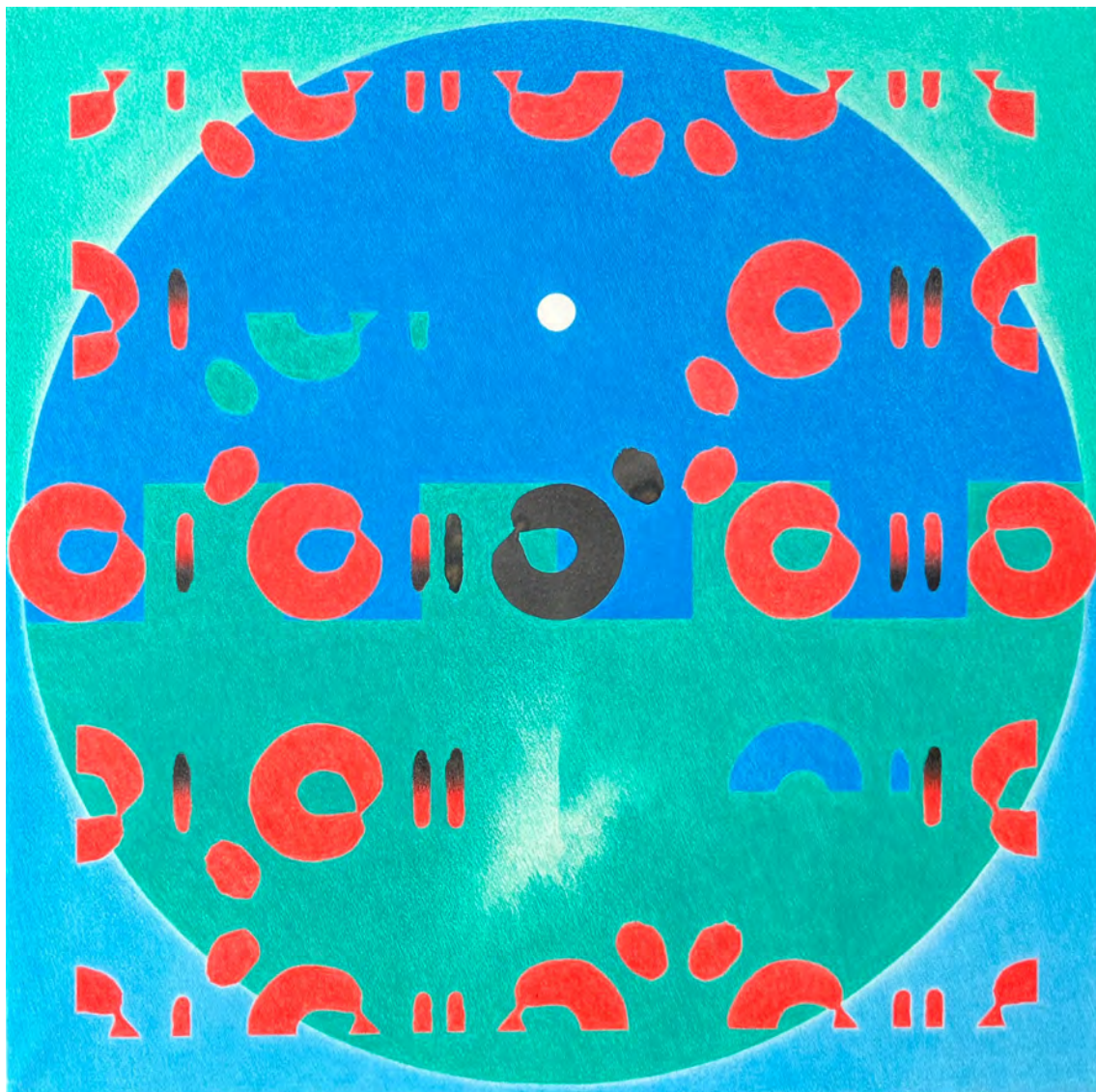




「月シリーズ-Jan.25.'26」 S20 木製パネル、ワトソン紙、色鉛筆、墨、他 2026

KAWAUCHI Sekikazu

— As a memory —

22—30. Août 2026



河内世紀一の作品は、決してすべてが綿密な構想のもとに制作されているわけではない。制作の最中にふと立ち現れる直感や感覚、そして内なるリズムに導かれるように、ときに大胆に色彩や構成を変化させながら画面をつくり上げていく。その制作過程は、あたかも即興曲を奏でるかのようにあり、画面のなかには独自のリズムと旋律が生まれていく。

その一方で、河内は膨大な時間と労力を要する色鉛筆という技法を選ぶ。その反復的な行為には、単なる技巧を超えた精神的な崇高さが宿っている。幾重にも線を重ね、色彩を積層させていく 営みは、瞑想のさらにその先にある世界を見つめる行為にも通じる。

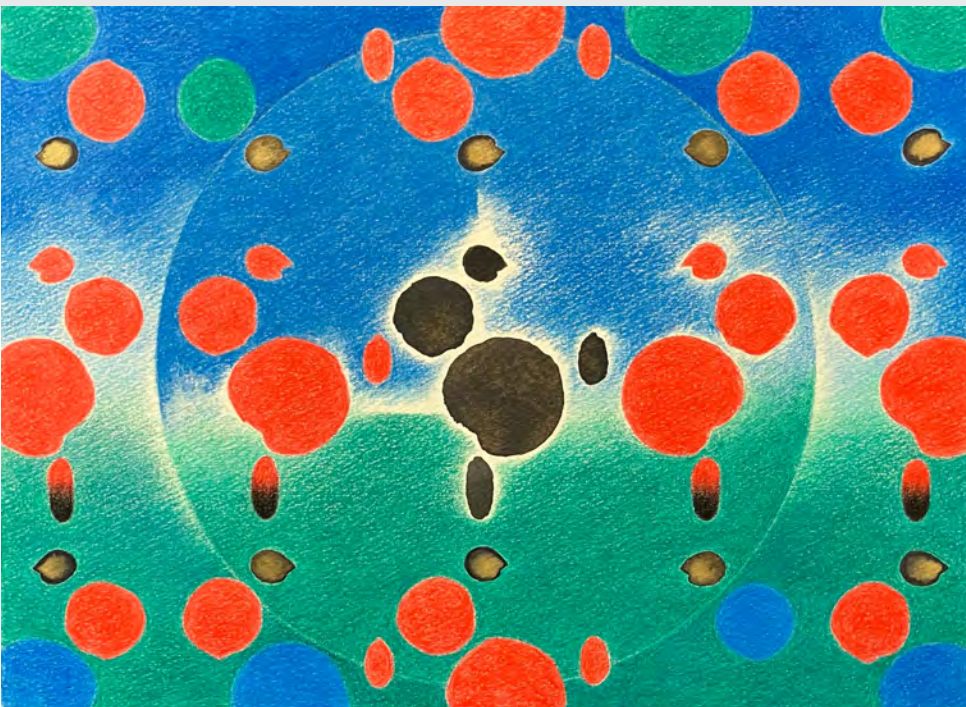
こうした創作の根底には、長年変わることのない圧倒的な生命力と創造への情熱がある。これまでの河内の作品は、内側からほとばしるエネルギーが太陽の如く照るものだった。

しかし今回の《月》シリーズには、それとは異なる側面もみられる。月は、自ら光を放つ存在ではなく、太陽光を受けて静かに輝く。人もまた決して一人では生きることができず、多くの人々との関わりの中で支えられ、生かされている。幼少期に東京大空襲を経験した河内にとって、「生きること」、あるいは何かの運命のもとに「生かされること」は、生涯を通じて向き合い続けてきた大きなテーマなのではないだろうか。さらに、その問いには、現在の世界情勢に対する眼差しや、平和への祈りも重ねられている。

《月》シリーズは、河内のこれまでの数多の記憶や経験、そして人生観そのものを映し出し、静かに輝いているのかもしれない。また、それは今回の副題である「As a memory」にも同時に込められているようにも思われる。

画廊主

80歳からの挑戦Vol.5



「無題—Apr.3.'26」F4 木製パネル、ワトソン紙、色鉛筆、墨、他 2026

タイトル「80歳からの…」は、梅津宏規さんが2021年、画廊翠巒での初めての個展のためにつけたものです。突然、「河内さん、タイトルは<80歳からの挑戦>に決めました!」と言い放ったので唖然としましたがそのまま受け入れました。歳といえば、ぼくが筑波大院生の時、外での授業の折り河口龍夫教授に話しかけようとしたら「僕は世代の話はしませんよ!」というので「ぼくも同感です!」と言いながら、ある質問をしました。二人とも年齢が同じで一方は教授、一方は学生という立場。ですから、同じ歳だからといって馴れあいの話はするなということでしょう。河口教授からは、作家としての厳しさを学びながら心地いいひと時を過ごしたことがあります。

宏規さんは、(株)ヤマトの企画展(7/6〜8/31、現在開催中)を見ないまま逝ってしまいました。でも、彼の残したタイトル「80歳からの挑戦…」は、追悼を兼ねて<vol.5>で終わるのがいいと考えました。一つの出会いの節目にもなります。

河内世紀一

河内世紀一展

2026年画廊企画 PART 8

— As a memory —

2026年8月22日[土]—30日[日]

10:30—19:00(火曜休廊・最終日17:00まで)



展示動画および作品のネット購入は会期初日からこちらで▶

KAWAUCHI Sekikazu

1940年 東京に生まれ/45 東京大空襲で被災、母生家のある伊勢崎へ移る/64 武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)美術教員養成科卒業/64 群馬県内の小・中学校勤務(日勢多郡東村・現みどり市、前橋市、〜73)/73 広告代理店・印刷会社・デザイン会社勤務(〜78)/76 ぐんまアートセンターの活動に参画、以後79年まで毎年個展(ぐんまアートセンターギャラリー・前橋)/79 (有)河内デザイン事務所代表取締役(〜98)/86 ART OF TODAY(同87)(プタベスト・ハングリー)/02 放送大学・人間の探求専攻卒業/04 筑波大学大学院芸術研究科修了(総合造形)【作品発表】04 個展「時・流れの再考」(登録有形文化財旧花輪小学校記念館・旧勢多郡東村・現みどり市)/05 個展(ノイエス朝日・前橋、同06〜09、'12、'18、'20)/14 第46回欧米ポルトガル美術賞展優秀賞(セトゥーバル・ポルトガル)/20 第21回日本・フランス現代美術世界展・協賛賞(マルマン)(国立新美術館・東京)/21 個展(インスタレーション)(富岡製糸場西置蔵所多目的ホール・富岡、同22)/個展「80歳からの挑戦」(画廊翠巒・前橋、以後毎年開催、〜24、26)/23「アートのための場所づくり—1970年代から90年代の群馬におけるアートスペース」(群馬県立近代美術館・高崎)/24「前橋の美術2024—やわらかなバトン—」(アーツ前橋)/「RE: もう一つの前橋の美術2024」(画廊翠巒・前橋、以後毎年開催、〜26)/26 個展「色と形とハーモニー」(株)ヤマト本社1階ギャラリー・前橋【主な著書】『マンダラと巡礼の風景—前田常作の「絵日記」をめぐって—』(新風舎刊)/『ジャクソン・ポロック—前衛への軌跡—』(私家版、DIPSA刊)



群馬県前橋市文京町 1-47-1 〒371-0801
TEL 027-223-6312(代) FAX027-221-5909
E-mail: suiran@suiran.com URL: <http://suiran.com>

